

# 第14回 関東産婦人科乳腺医学会

【テーマ】

ブレストアウェアネス啓発のための基礎知識

【会長】 高松 潔

東京歯科大学市川総合病院産婦人科 教授

【会期】 2023年8月27日（日）

【会場】 都市センターホテル（ハイブリッド開催）

---

## 目 次

---

ご挨拶	-----	3
参加者の皆様へ	-----	4
交通ご案内	-----	6
会場見取図	-----	7
日程表	-----	8
講演抄録・略歴	-----	9
講演	-----	10
乳房エキスパート看護職セッション	-----	14
日本産科婦人科学会女性ヘルスケア委員会	-----	18
スポンサードシンポジウム	-----	24
関連学会・研究会予定	-----	30
協賛企業一覧	-----	32

---

## ご挨拶

---

### 第14回関東産婦人科乳腺医学会開催にあたり



この度、2023年8月27日（日）に開催される第14回関東産婦人科乳腺医学会学術集会を東京歯科大学市川総合病院 産婦人科で担当させていただくこととなりました。大変光栄に存じております。

日本人において最も罹患率の高い悪性腫瘍は乳がんであることは周知であり、その対応、特に早期発見は急務となっています。近年、乳がん対策のために世界的に提唱されているキーワードは「ブレストアウェアネス」です。これは「乳房を意識する生活習慣」のことであり、女性が乳房の状態に日頃から関心を持つことにより、乳房の変化を感じたら速やかに医師に相談することを勧めています。しかし、産婦人科では妊娠・出産のときだけでなく、乳腺疾患に遭遇することが少なくありませんが、従来から「乳房は外科など他科にお任せ」的などころがあったように思います。女性のかかりつけ医として、また、女性の疾患のゲートキーパーとして乳腺疾患の知識を持つことはとても重要であることは言うまでもありません。

そこで、今回の第14回関東産婦人科乳腺医学会学術集会では、テーマを「ブレストアウェアネス啓発のための基礎知識」とし、乳腺に関する最近の話題を中心に、多角的に乳腺疾患について学べる場としたいと考えました。特に画像診断については、各モダリティの現状と課題をまとめるべく、シンポジウムを企画いたしました。開催形式は、昨年同様に現地（都市センターホテル）およびオンライン（Zoom ウェビナー形式）によるハイブリッド形式による開催を予定しております。

産婦人科医師のみならず、乳腺科、放射線科など他科の先生方、加えて助産師や看護師、薬剤師など、いろいろな領域の皆様にご参加いただけるものと期待いたします。ぜひ、この分野に興味をお持ちのまわりの方々にもお声がけいただきたく、宜しく願い申し上げます。

第14回 関東産婦人科乳腺医学会

会長 高松 潔

（東京歯科大学市川総合病院 産婦人科 教授）

---

## 参加者の皆様へ

---

### I. 参加費

医師	8,000 円
その他の方	4,000 円
初期研修医・学生	無料

\*身分証のコピーを Email 添付にて事務局へお送りください。

### II. プログラム抄録集

ご登録された方に PDF にて Email 添付送信させて頂いております。追加で冊子が必要な場合には、事務局へご連絡の上、別途ご購入ください（1部1,000円）。数に限りがございますため、先着順とさせていただきます。

### III. 各種研修証明について

医師の方へ

当学会プログラムにご参加の方には、以下の発行を予定しております。

日本産科婦人科学会	産婦人科専門医 研修出席証明
日本専門医機構	学術集会参加単位 産婦人科領域講習
日本医師会	生涯教育制度参加証
日本産婦人科医会	研修参加証

助産師の方へ

当学会プログラムは、以下に該当する講義を含みます。

日本助産評価機構更新要件	選択研修
日本産婦人科乳腺医学会	乳房エキスパート看護職制度単位

### IV. 当日のオンライン参加について

第14回関東産婦人科乳腺医学会は、ハイブリッド形式にて開催させていただきます。

- オンライン会議システム Zoom ウェビナーを使用します。
- ID、パスワードによってセキュリティーチェックを実施します。
- 座長と演者のみがカメラとマイクを使用する設定で進行させていただきます。
- オンラインによる学会での発表に際し、本学会では各自のコンピューターの操作・インターネット接続・映像・音声等のトラブルの対応はできません。ご自身での解決をお願いします。
- 配信画面の録画、静止画記録、録音を一切禁止致します。
- ID、パスワードの譲渡・共有は禁止致します。
- 本オンライン学会参加に要する通信料は、参加者の自己負担と致します。

## V. 現地会場参加の方へ

- 参加受付は、当日午前8時30分より、講演会場前にて行います。
- 参加費と引き換えにネームカードをお渡し致します。
- 会場内において、写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
- 携帯電話は、マナーモードにするか、電源をお切りください。
- 会場内でのお呼出は原則行いません。
- 感染防止対策について、以下の通りご案内申し上げます。ご協力賜りますようお願い申し上げます。
  - ◇ ご来場に際しましては、可能な限りマスク着用をお願い申し上げます。
  - ◇ 会場入り口にて、手指消毒液をご用意させていただきます。
  - ◇ 発熱がございました場合はご入場を見合わせて頂く可能性もございます。
  - ◇ 会場での感染防止対策は、以下のように策を講じております。
    - マスク着用の奨励
    - 定期的な室内の換気
    - 机、椅子等のアルコール消毒

## VI. オンデマンド配信について

第14回関東産婦人科乳腺医学会ホームページ

<http://www.academiasupport.org/14kanto-jbsgo.html>

から学会プログラムをオンデマンド配信致します。

オンデマンド配信の期間は、9月1日（金）～30日（土）を予定しております。

なお、日本産科婦人科学会の単位取得は、8月27日（日）現地参加またはオンライン参加、またはオンデマンド配信にて9月1日（金）～9月8日（金）の視聴が対象となります。予めご了承頂ければ幸いです。

ご不明な点等ございましたら、以下事務局へお尋ねください。

皆様のご協力を厚く御礼申し上げます。どうぞよろしくお願い致します。

### 【お問合せ先】

第14回関東産婦人科乳腺医学会運営事務局

一般社団法人アカデミアサポート内

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-24-7-920

Tel : 03-5312-7686 Fax : 03-5312-7687

Email: 14kanto-jbsgo@academiasupport.org

## 交通ご案内

現地会場：都市センターホテル 5階  
 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1  
<https://www.rihga.co.jp/toshicenter/>

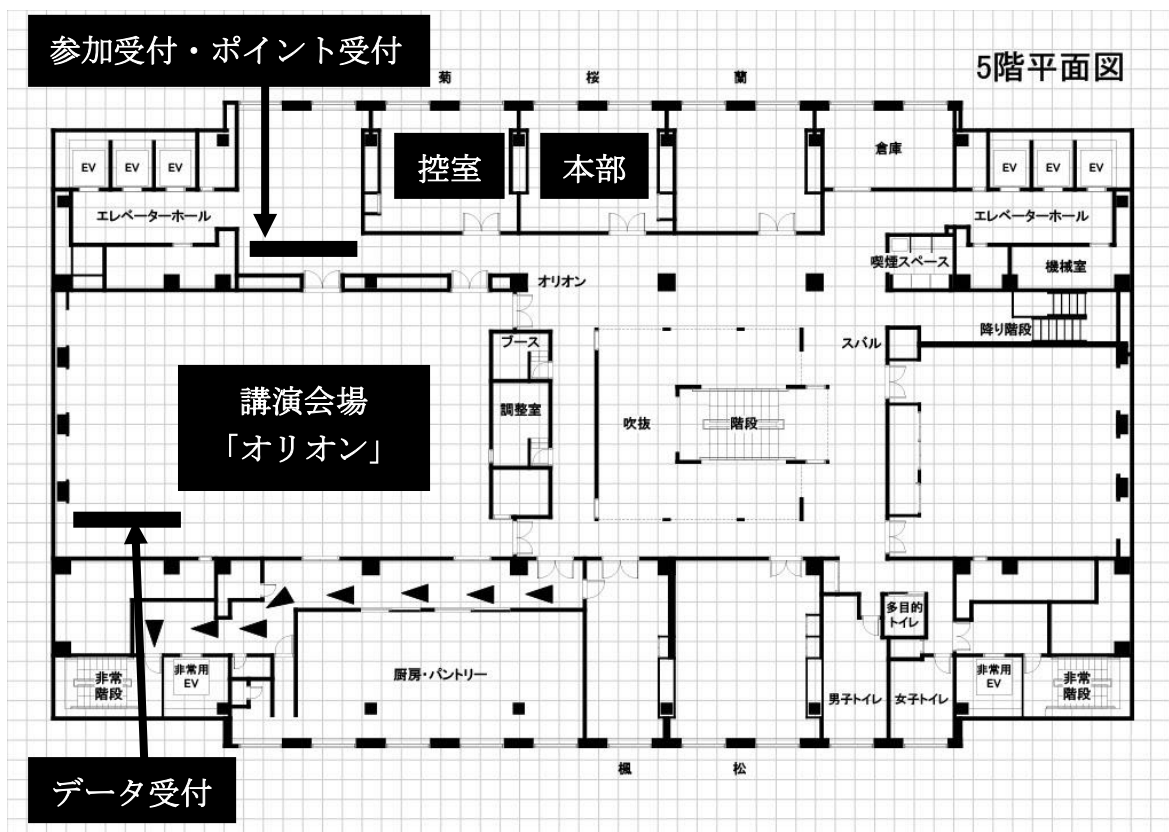
### 【交通のご案内】

- ・東京メトロ 有楽町線・半蔵門線・南北線  
 「永田町」駅 4番・5番出口より徒歩4分、  
 9b番出口より徒歩3分
- ・東京メトロ 有楽町線「麹町」駅  
 半蔵門方面1番出口より徒歩4分
- ・東京メトロ 丸ノ内線・銀座線  
 「赤坂見附」駅 D出口より徒歩8分
- ・JR中央線「四ツ谷」駅  
 麹町口より徒歩14分



# 会場見取図

## 都市センターホテル 5階



- 講演会場：5階「オリオン」
- 参加受付：5階「オリオン」前ロビー
- ポイント受付：5階「オリオン」前ロビー
- データ受付：5階「オリオン」前方左手
- 演者・座長御控室：5階「菊」
- 学会本部：5階「桜」
- 展示コーナー：5階「オリオン」前ロビー
- クロック：1階フロント横

## 日程表

時間	プログラム
	<b>開会の辞</b> 高松 潔 (東京歯科大学市川総合病院産婦人科教授)
09:00～10:00	<b>講演 1 「疫学の視点からみた日本人女性の乳癌リスクについて」</b> 座長：宮城 悦子 (横浜市立大学医学部産婦人科学教室主任教授) 演者：大谷 彰一郎 (大谷しょういちろう乳腺クリニック院長)
10:00～10:10	休憩 10 分
10:10～11:10	<b>講演 2 「卵巣癌の最近の診療動向と HBOC」</b> 座長：高松 潔 (東京歯科大学市川総合病院産婦人科教授) 演者：青木 大輔 (国際医療福祉大学大学院教授/赤坂山王メディカルセンター院長)
11:10～11:20	休憩 10 分
11:20～12:20	<b>乳房エキスパート看護職セッション：</b> <b>乳房を意識する生活習慣 (プレストアウェアネス) 啓発への取り組みの実際～看護職 (開業助産師・乳がん看護認定看護師) の立場から～</b> 座長：井関 千裕 (兵庫県立西宮病院看護部がん看護専門看護師) <b>「母乳育児支援専門開業助産師によるプレストアウェアネスへの支援」</b> 演者：手代木 清香 (あおい母乳育児相談処所長) <b>「ライフサイクルごとのプレスト・アウェアネスを考える」</b> 演者：源 典子 (三和病院看護師)
12:20～12:30	休憩 10 分
12:30～13:30	<b>ランチョンセミナー</b> 【共催：大塚製薬株式会社ニュートラシューティカルズ事業部】 座長：岡本 愛光 (東京慈恵会医科大学産婦人科教室主任教授) <b>「周術期乳がんの治療について～POSITIVE trial の結果を含めて～」</b> 演者：鶴谷 純司 (昭和大学先端がん治療研究所所長・教授)
13:30～13:40	休憩 10 分
13:40～13:55	<b>総会</b>
13:55～14:00	休憩 5 分
14:00～15:00	<b>日本産科婦人科学会女性ヘルスケア委員会 PABC の実態調査報告</b> 座長：加藤 剛志 (徳島大学医学部産科婦人科学分野特任教授) <b>「本邦における妊娠関連乳がんの実態調査から分かったこと」</b> 演者：樋口 毅 (弘前大学大学院保健学研究科看護学領域教授) <b>「妊娠現象と乳腺腫瘍 (良性疾患を中心に)」</b> 演者：土橋 一慶 (千川産婦人科医院院長) <b>「妊娠期関連乳がん (PABC) 患者の臨床病理学的特徴と治療の変遷について」</b> 演者：片岡 明美 (がん研究会有明病院乳腺センター乳腺外科医長)
15:00～15:10	休憩 10 分
15:10～16:50	<b>スポンサードシンポジウム</b> 【共催：GE ヘルスケア・ジャパン株式会社】 座長：高松 潔 (東京歯科大学市川総合病院産婦人科教授) 座長：久保田 一徳 (獨協医科大学埼玉医療センター放射線科主任教授) <b>「乳がん検診のモダリティの今とこれから—乳房超音波のよもやま話—」</b> 演者：水谷 三浩 (三河乳がんクリニック院長) <b>「マンモグラフィ検診における読影の基本」</b> 演者：岩本 奈織子 (がん・感染症センター都立駒込病院外科 (乳腺) 医員) <b>「乳房 MRI と最新技術」</b> 演者：久保田 一徳 (獨協医科大学埼玉医療センター放射線科主任教授)
16:50～16:55	<b>関東産婦人科乳腺医学会 代表挨拶</b> 宮城 悦子 (横浜市立大学医学部産婦人科主任教授)
16:55～17:00	<b>次期会長挨拶</b> 的野 博 (的野ウィメンズクリニック院長)
17:00～17:05	<b>閉会の辞</b> 高松 潔 (東京歯科大学市川総合病院産婦人科教授)



# 講演抄録・略歴

## 【講演 1】

### 疫学の視点からみた日本人女性の乳癌リスクについて

大谷しょういちろう乳腺クリニック

大谷 彰一郎

- ① 日本は欧米諸国と比較すると乳癌の罹患率、死亡率は低いですが、年々罹患率は増加傾向にあり、女性の癌の罹患率で第一位である。2019 年の全国がん登録データによると乳癌の罹患者数は 9 万人を超えている。一方、2019 年までは日本人女性の癌の死亡数では乳癌は部位別では、大腸、肺、膵臓、胃に次いで第 5 位であったが、2020 年より大腸、肺、膵臓に次いで第 4 位となりその順位は 2021 年も変化なかった。
- ② 乳癌の発症リスクにはアルコールや喫煙や肥満の生活習慣のほかに、家族歴、既往歴、増殖性乳腺良性疾患、高線量の被曝などが関連する。
- ③ 乳癌を予防するためには、喫煙やアルコール摂取を控え、閉経後の肥満を避けるために体重を管理し、身体活動量を増やすことが重要である。

## 略歴

---



大谷しょういちろう乳腺クリニック 院長

大谷 彰一郎 (おおたに しょういちろう)

### 【学歴】

1988年 3月 淳心学院高校 卒業  
1995年 3月 岡山大学医学部 卒業  
2001年 4月 岡山大学医歯薬総合研究科 入学  
2004年 3月 博士号取得 上記 卒業

### 【職歴】

1995年 5月 日本医師免許取得  
岡山大学医学部麻酔蘇生科入局  
1996年 7月 岡山労災病院麻酔科勤務  
1997年 7月 岡山大学第一外科入局  
1997年 11月 津山中央病院外科勤務  
2000年 11月 楠本病院外科勤務  
2001年 4月 武田病院外科勤務  
2003年 7月 玉島中央病院外科勤務  
2004年 4月 テキサス州立 M. D. アンダーソン癌センター 胸部血管外科勤務  
2006年 11月 広島市立広島市民病院 乳腺外科勤務  
2016年 4月 同 主任部長  
2018年 4月 同 ブレストケアセンター長  
2021年 2月 大谷しょういちろう乳腺クリニック 院長  
2023年 3月 医療法人社団 耕和会 理事長  
現在に至る

## 【講演 2】

### 卵巣癌の最近の診療動向と HBOC

国際医療福祉大学大学院／赤坂山王メディカルセンター

青木 大輔

卵巣癌の約 10-15%は、BRCA1 または BRCA2 遺伝子 (BRCA) の生殖細胞系列 (gBRCA) の病的バリエントを保持する遺伝性乳癌卵巣癌 (hereditary breast-ovarian cancer ; HBOC) である。近年 BRCA の病的バリエントや相同組み換え修復欠損 (homologous recombination repair deficiency; HRD) が生じている癌細胞に対して効果が期待される PARP 阻害薬の維持療法が行われるようになった。

プラチナ感受性の卵巣癌再発にプラチナ製剤を含む多剤併用療法を行い効果の確認された後に PARP 阻害薬であるオラパリブやニラパリブの維持療法を行うと有意に無増悪生存期間 (PFS) が延長することが RCT (SOLO2、NOVA) によって検証された。また、gBRCA 病的バリエント陽性進行卵巣癌の術後化学療法 (first-line) 後にオラパリブ維持療法を行うと有意に PFS を延長する (SOLO1)。また RCT (PRIMA) の結果からニラパリブは BRCA のバリエントによらず術後化学療法のプラチナ感受性が確認できれば使用可能であるが、BRCA 陽性症例でより効果が高い。RCT (PAOLA1) によれば、卵巣癌組織における HRD または腫瘍(t)BRCA の状態をみる myChoice が陽性であれば、術後化学療法にベバシズマブが併用された場合、維持療法としてベバシズマブとオラパリブによる維持療法が効果的であるが、HRD 陰性症例ではオラパリブによる PFS の延長は見られない。BRCA は 2 本鎖 DNA 切断を相同組み換えによって修復することから、BRCA バリエントだけでなく関連遺伝子のバリエントなどによっても HRD が生じうる。PARP 阻害薬は、gBRCA バリエントだけでなく HRD の状態にも効果的である。体細胞バリエント、エピゲノム異常等も含めると高異型度漿液性卵巣癌のおおよそ 50%程度に HRD が認められる。したがって、がん細胞のプラチナ感受性に加えて、gBRCA や tBRCA、さらには HRD の状態は、薬物選択や効果予測の観点から重要性は高い。

また、最近のがんゲノム医療の普及に伴って癌遺伝子パネル検査が行われるケースが増加している。種々のがんはこの検査を実施した場合に偶発的に発見される生殖細胞系列病的バリエントに gBRCA をはじめとする HRD 関連遺伝子の病的バリエントが含まれる可能性があることから血縁者も含め対応を迫られるケースが増加することが予想される。

## 略歴

---



国際医療福祉大学大学院 教授  
赤坂山王メディカルセンター 院長

**青木 大輔** (あおき だいすけ)

### 【学歴】

1982年 3月 慶應義塾大学医学部卒業

### 【職歴】

1982年 5月 慶應義塾大学医学部研修医（産婦人科）  
1985年 6月 慶應義塾大学医学部助手（専修医）（産婦人科学）  
1988年 9月 米国 La Jolla Cancer Research Foundation（現 Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute）Post-doctoral fellow  
1990年 9月 国立東京第二病院  
（現 独立行政法人国立病院機構東京医療センター）医員  
1991年 12月 慶應義塾大学助手（医学部産婦人科）  
1996年 4月 慶應義塾大学専任講師（医学部産婦人科学）  
2005年 4月 慶應義塾大学教授（医学部産婦人科学）  
2023年 4月 慶應義塾大学名誉教授  
2023年 4月 国際医療福祉大学大学院教授  
2023年 4月 赤坂山王メディカルセンター院長

### 【所属学会】

日本産科婦人科学会（副理事長）、婦人科悪性腫瘍研究機構（監事）、日本産科婦人科遺伝診療学会（副理事長）、日本遺伝性腫瘍学会（副理事長）、日本婦人科腫瘍学会（常務理事）、日本産科婦人科内視鏡学会（常務理事）、日本婦人科がん検診学会（常務理事）、日本産婦人科手術学会（常務理事）、日本女性医学学会（理事）、日本がん検診・診断学会（理事）、日本臨床細胞学会（評議員）、日本癌学会（評議員）、日本癌治療学会

### 【専門資格等】

産婦人科専門医、婦人科腫瘍専門医、細胞診専門医、遺伝性腫瘍専門医、女性ヘルスケア専門医

## 【乳房エキスパート看護職セッション】

### 母乳育児支援専門開業助産師によるブレストアウェアネスへの支援

あおい母乳育児相談処

手代木 清香

私は、2021年10月に横浜市戸塚区において母乳育児支援を専門とする助産所を開業し、活動している。私が助産師として考えるブレスト・アウェアネスに関わる指導は、最初に出会った時から始まり、授乳期間を通して行うものである。当施設で実施する保健指導は、妊婦への母乳育児教育、授乳期の母乳育児相談・指導と乳房マッサージ、断乳・卒乳の相談とその後のケアである。中でも、妊婦への母乳育児教育「おっぱい教室」は、母乳育児をスムーズに確立させるために重要な保健指導だと考えている。対象者は、妊娠32～36週の妊婦で、指導内容は、①自分の乳房を知る、②乳房の解剖と母乳の出る仕組み、③母乳の利点と問題点、④妊娠中にしておきたい乳房のお手入れの方法、⑤産後の乳房ケア、乳房自己マッサージの方法、⑥赤ちゃんの抱き方と吸わせ方、⑦よくある悩みと乳頭トラブル・乳腺炎の対処法についてである。

産後間もない時期には、苦痛のない授乳により母乳分泌が増えることを目指し、児の抱き方や吸わせ方、乳房自己マッサージの方法、搾乳法の指導を行う。自身の乳房の変化（乳房緊満・うっ積・うっ乳）を理解するために、産後の身体的変化と乳房の生理的变化について説明し、自分で乳房を視触診できるようにその方法を指導する。

授乳中の乳房トラブルには、原因を確定し今の乳房の状態を判断する。母親が理解できるように説明し、乳房の状態に合わせた乳房マッサージを施行する。異常または異常を疑うと判断した場合には、医師への受診を促す。今後のトラブルを予防するために、母親の希望と生活状況に合わせた保健指導を行い、自己管理できるように指導している。

卒乳・断乳時は、うっ滞性乳腺炎を起こさない指導とケア、乳腺の縮小を促す断乳手技を行う。断乳開始時には、母親自身も乳房に触れてしこりがないかを確認し、乳汁分泌の減少や乳腺の縮小など乳房が変化する様子を母親自身が自覚できるように説明している。断乳ケア終了時には非妊時の乳腺、乳房について説明し、ブレストア・ウェアネスの考え方を再度指導して乳がん検診を勧める。

授乳期は乳房の変化が大きく、女性の生涯の中でも特に乳房を意識して生活する時期である。出産年齢と乳がんの罹患が増える時期が重なることから、授乳期の乳がんを意識しつつ、授乳期が終わっても生涯にわたり乳房を意識する生活習慣が身に付くような関わりを心掛けている。

## 略歴

---



あおい母乳育児相談処 所長

手代木 清香 (てしろぎ さやか)

### 【学歴】

2006年 埼玉県立大学短期大学部専攻科助産学専攻卒業

2020年 堤式乳房マッサージ法研究所研修終了

### 【職歴】

2006年 茅ヶ崎徳洲会総合病院 産婦人科病棟

2011年 横浜市立大学附属市民総合医療センター 総合周産期母子センター

2013年 ひまわりレディース&マタニティクリニック

2016年 宮川医院産婦人科

2021年 あおい母乳育児相談処

### 【所属学会】

日本助産師会

日本看護協会

日本母性衛生学会

日本周産期・新生児学会

### 【専門資格等】

堤式乳房マッサージ法認定者

新生児蘇生法一次コースインストラクター

NARD JAPAN (ナード・アロマセラピー協会) アロマ・インストラクター

## 【乳房エキスパート看護職セッション】

### ライフサイクルごとのブレスト・アウェアネスを考える

三和病院

源 典子

これまで乳がん検診で自己検診の必要性が言われてきていたが、2021年10月の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」の一部改正され、「自己触診」が削除され、新たに「ブレスト・アウェアネス」の用語が盛り込まれた。しかしながら、「ブレスト・アウェアネス」の認知度は乳がん診療に日々携っている医師・看護師でも低い現状である。ブレスト・アウェアネスは、「乳房を意識する生活習慣」と我が国では定義されており、4つのポイントが示されている。①自分の乳房の状態を知る②乳房の変化に気をつける③変化に気づいたらすぐ医師に相談する④40歳になったら2年に1回乳がん検診を受けるとされている。(引用：厚生労働省：第32回がん検診のあり方に関する検討会 資料2-3)

乳がん看護認定看護師として、長年乳がん看護に携わってきたが、乳腺外科に来院する患者から発せられる言葉からブレスト・アウェアネスの考え方が、市民に浸透することが必要だと思われることが多かった。そのため、ライフサイクルごとにどんな乳房の変化があるのか、どうしたケアが必要なのかを事例を通してながら検討していきたいと思う。



## 略歴

---

三和病院 看護師

源 典子 (みなもと のりこ)

### 【学歴】

2002年 二葉看護学院 保健看護学科卒業 看護師・保健師資格取得

2008年 千葉大学看護学部 認定看護師教育課程卒業 乳がん看護認定看護師取得

### 【職歴】

セコメディック病院

杏林大学附属病院

川上診療所

国立がん研究センター東病院

三和病院 (現職)

### 【所属学会】

日本乳癌学会、乳がん看護研究会

### 【専門資格等】

乳がん看護認定看護師

## 【日本産科婦人科学会女性ヘルスケア委員会 PABCの実態調査報告】

### 本邦における妊娠関連乳がんの実態調査から分かったこと

弘前大学大学院保健学研究科看護学領域

樋口 毅

樋口 毅<sup>1)</sup>、加藤 剛志<sup>2)</sup>、片岡 明美<sup>3)</sup>、高松 潔<sup>4)</sup>、土橋 一慶<sup>5)</sup>、寺内 公一<sup>6)</sup>

<sup>1)</sup>弘前大学大学院保健学研究科看護学領域、<sup>2)</sup>徳島大学病院地域産婦人科診療部、

<sup>3)</sup>がん研究会有明病院乳腺センター乳腺外科、<sup>4)</sup>東京歯科大学市川総合病院産婦人科、

<sup>5)</sup>千川産婦人科医院、

<sup>6)</sup>東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科茨城県地域産科婦人科学講座

【目的】妊娠関連乳がん(pregnancy associated breast cancer, PABC)とは妊娠中や産褥に発見される乳がんを指す。罹患した女性は妊娠継続、育児において様々な障害を受ける。特に授乳期に発見されるものは予後不良であることも示唆されている。しかし本邦では、PABCの対策はおろか、実態も不明瞭である。本邦でのPABCの現状を把握することを目的とした。

【方法】日本産婦人科乳腺医学会の認定医所属施設、160施設と日本乳癌学会認定施設、139施設に一定期間(2018年1~12月)のPABC症例についてのアンケートを行った。なお、産褥は、分娩後1年以内とした。本研究は、徳島大学病院、および日本産科婦人科学会の臨床研究倫理委員会の承認を受けた後に行った。前者からは妊娠、産褥のPABCの頻度、発症年齢、発症時期などを、後者からは確定診断されたPABCの発見動機、進行期、およびリンパ節転移、ホルモン受容体の有無などについて評価した。

【結果】2つのアンケート結果の概要は以下のようになった。

1. 日本産婦人科乳腺医学会認定医所属施設へのアンケート

108施設から有効回答が得られた。受療妊産婦において、妊婦9111例中9例(約1000例に1例)、褥婦7126例中4例(約1800例に1例)が乳癌で、PABC全体では妊産婦約1250例に1例だった。妊婦PABCの平均年齢は35.6歳(範囲29-42歳)、平均発見週数は25.5週(同9-38週)、褥婦PABCでは平均年齢36.5歳(同31-41歳)、発見時期は平均で産褥3.7ヶ月(同1~9ヶ月)であった。

2. 日本乳癌学会認定施設へのアンケート

32施設から有効回答が得られた。乳癌症例は総数で5231例、うち妊婦は17例(乳癌症例300例に1例)、産褥は15例(同350例に1例)であった。PABC32例中25例(78.1%)で自己触知が発見動機で、臨床進行期の内訳はI、II、III、IV期がそれぞれ31.3、37.5、21.9、9.4%であった。また妊婦ではホルモン受容体陽性例が17例中14例、褥婦ではトリプルネガティブ症例が15例中7例であった。

【考察】アンケート1からは、PABCは妊婦10万人あたり約99人、褥婦10万人あたり約56人と推計された。年齢階級別乳癌罹患率(2015年)では、35~39歳の女性で10万人あたり50~60人であり、褥婦では一般の罹患率と同等であるが、妊婦では約2倍であった。アンケート2からは、PABCでは発見動機として自己触知が多いこと、また臨床進行期では、全国乳がん患者登録調査報告書(2018年)と比べ、ステージIが少なく(全体では42.8%)、ステージIVが多く(同2.1%)、初期症例が少なく、進行症例が多いことが示唆された。PABCではホルモン受容体陰性が多く(32例中10例)、治療選択の難しさや長期治療の必要性も予想された。妊娠前、および妊産婦においてもブレストアウェアネスや乳房検診の重要性を周知させることが大切と考えられる。

## 略歴

---



弘前大学大学院保健学研究科看護学領域 教授

樋口 毅 (ひぐち つよし)

### 【学歴】

昭和 62 年 3 月 弘前大学医学部卒業

### 【職歴】

昭和 62 年 4 月 弘前大学産科婦人科学教室入局

平成 2 年 10 月 弘前大学医学部助手

平成 8 年 3 月 「皮膚におけるプロテオグリカン合成酵素の生化学的調節機構」で学位取得 (医学博士)

平成 8 年 4 月 米国ペンシルバニア州立大学医学部 生化学教室留学 (文部省在外研究員/私費留学)

「間質性膀胱炎とヒアルロン酸, ムチン型糖タンパクの関連の研究」に従事

平成 12 年 2 月 弘前大学医学部附属病院 講師

平成 23 年 5 月 弘前大学医学部附属病院 准教授 (周産母子センター)

平成 24 年 9 月 弘前大学医学部 保健学科 教授 現在に至る。

### 【所属学会】

日本産科婦人科学会 代議員 女性ヘルスケア委員会委員

日本産婦人科医会 女性保健委員会委員

日本女性医学学会 特任理事

日本骨粗鬆症学会 評議員 認定医制度委員会委員

骨粗鬆症至適療法研究会 (A-TOP 委員会) 実行委員

日本女性骨盤底医学会 幹事

産婦人科骨粗鬆症研究会世話人

Female Lower Urinary Tract Symptoms and Pelvic Floor Meeting 世話人

東北骨代謝研究会 世話人

日本医師会 勤務医委員会委員

### 【専門資格等】

日本産科婦人科学会 専門医・指導医

日本女性医学学会 専門医・指導医

日本骨粗鬆症学会 認定医

日本乳がん検診精中機構 検診マンモグラフィー読影認定医

日本医師会 認定産業医

## 【日本産科婦人科学会女性ヘルスケア委員会 PABCの実態調査報告】

### 妊娠現象と乳腺腫瘍（良性疾患を中心に）

千川産婦人科医院

土橋 一慶

土橋一慶<sup>1)</sup>、赤川クリニック<sup>2)</sup>、森田哲夫<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 千川産婦人科医院、<sup>2)</sup> 赤川クリニック、<sup>3)</sup> 大川産婦人科病院

私たち産婦人科医が最も切望している妊娠関連乳癌（PABC）患者での不幸な転帰を減らすためには、適切な治療方法の確立とともに、1) 妊娠前からの乳房チェック、2) 妊娠初期での乳房チェック、3) 授乳時期での乳房チェック など に取り組まなくてはならない。しかしながら 40 歳以下の乳がん検診における有効な検診方法は未だ確率されていないのが現状で、40 歳代の検診からマンモグラフィ（MMG）は高濃度乳腺の割合が高く、超音波（US）で感度は高まるが特異度の問題点、触診については全く無意味で行うことに問題あり、などの点が指摘されている。

今回我々は、すでに 2003 年に報告した妊婦乳房チェックに視触診と US との併用が有用である結果をもとに継続した成績、併せて対象者へのアンケート結果などから明らかになってきた 1) 生理的妊娠/授乳変化の画像変化からみた乳腺チェック時期と画像変化、2) 妊娠時と授乳期、繰り返す妊娠/授乳における良性乳腺腫瘍の変化（乳腺線維腺腫、いわゆる授乳性腺腫）、3) 乳頭疾患（乳頭部腺腫）と授乳との関連性、4) 妊娠/授乳期における乳腺腫瘍のスクリーニングにおける留意点、5) 産婦人科医自身が視触診と併用する US での乳房チェックがブレストアウェアネス（BA）に与えた影響、6) 妊娠/授乳期における乳房チェックの限界と問題点、について報告する。また、プレコンセプション・ケアにおける BA への取り組みについての重要性と産婦人科医自身のかかわり方について私達の考えを述べる。

## 略歴

---

千川産婦人科医院 院長

**土橋 一慶** (とばし かずよし)

### 【学会認定医・専門医】

日本産婦人科学会専門医 日本乳癌学会専門医

### 【学歴・職歴】

昭和 48 年：日本大学医学部卒 同：日本大学板橋病院産婦人科助手

昭和 55 年：帝京大学医学部産婦人科講師

平成元年：同 医学部産婦人科助教授

平成 12 年 6 月：千川産婦人科医院開設し現在に至る

### 留学歴

昭和 58 年—59 年：カリフォルニア大学アーバイン校産婦人科教室

昭和 62 年—63 年：デュッセルドルフ大学附属クレフェルド病院産婦人科

### 【現在までの活動歴】

世界産婦人科連合 (1992-1998) : Committee for the study of female breast 委員

日本乳癌学会 (1994-2005) : 乳癌学会認定医・専門医委員会 委員

日本乳癌検診学会 (1994-2004) : マンモグラフィ併用乳癌検診システム精度管理中央委員会 委員、乳房超音波検診精度管理委員会(委員) (2007-2008)

日本産婦人科医会 がん対策委員会 乳がん検診小委員長(1997-2003) 協力委員(2003-2006)

NPO マンモグラフィ併用乳癌検診システム精度管理中央機構 理事(2004-2017)

厚生省 佐伯班(HRT と乳癌) : 班長協力者(2004-2007)

東京都医師会乳がん対策委員会 委員長(2005 年 6 月—2007 年 3 月)

日本乳癌検診学会理事～2010 年 12 月

日本産婦人科乳腺医学会(旧：日本産婦人科乳癌学会)(常務理事)～2017 年)

## 妊娠期関連乳がん（PABC）患者の臨床病理学的特徴と 治療の変遷について

がん研究会有明病院乳腺センター乳腺外科

片岡 明美

片岡 明美、阿部 朋未、植弘 奈津恵、高畑 史子、春山 優理恵、吉田 奈央、家里 明日美、  
山下 奈真、松永 有紀、中平 詩、井上 有香、前田 哲代、吉田 和世、高橋 洋子、稲荷 均、  
坂井 威彦、上野 貴之、大野 真司

がん研究会有明病院乳腺センター乳腺外科

妊娠関連乳癌（PABC）には、妊娠中に診断される妊娠期乳癌（PBC）と、産後1年以内または授乳期に診断される授乳期乳癌（LBC）がある。PABCは乳癌検診の対象年齢以下の若年層に多く、緊満した乳房のために自己発見も遅れ、進行していることが多い。特にLBCは、授乳から断乳へと乳腺の退縮過程でおこるinvolutionが乳癌細胞の転移・浸潤を促進する可能性が示唆されており、PBCよりも予後不良とされている。これまで、乳癌患者全体に占めるPABCの頻度は数%であり、その全体的な特徴や治療についてまとまった国内の報告は少なく、診療現場では特殊ケースとして個別の対応に苦慮してきた。

しかし、近年の女性の晩婚化と生殖医療技術の進歩により、高齢妊娠は増加しており、妊娠・産褥期と乳癌のタイミングが重なり、PABCも今後増加することが懸念されている。

そこで、本講演では、これからのPABCの診療に反映させるため、当院のPABCの実際と治療成績の変遷を報告し、乳癌診療と周産期医療の有機的な連携の在り方について考えを深めてみたい。

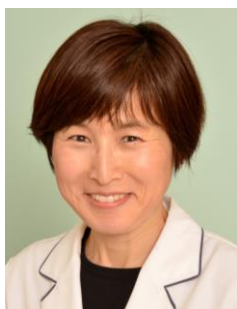
【対象と方法】1946年から2018年にかけて当院で手術を受けたLBC126名とPBC49名の臨床病理学的特徴、治療内容、乳癌特異的無病生存率および全生存率をLBCとPBCで治療時代別に比較した。

【結果】LBCはPBCに比べ、家族歴を有する者が多く、リンパ節転移やリンパ管侵襲を来しており、化学療法の施行割合が高かった。予後は、LBCがPBCに比べ有意に不良であった。LBCの経時的な比較では、2005年以降に治療を受けたLBCは、2004年以前に治療を受けた患者群よりも年齢が高く、早期発見されており、集学的治療により予後が有意に改善していた。LBCにおける予後不良因子は、家族歴、産後1年以内の乳癌、2004年以前の手術、cStage、リンパ節転移、リンパ管侵襲であった。PABC全体の予後に関する多変量解析では、LBCであること自体は独立した予後不良因子とはならず、cStageが独立した予後不良因子であった。

【結論】LBCはPBCよりも予後不良であったが、これは生物学的特徴よりもむしろ疾患の進行（cStage）に起因している可能性があり、PABCの予後を改善するためには、妊娠・授乳期という特殊時期であっても早期発見と全身治療の最適化を目指す必要があると考えられた。

## 略歴

---



がん研究会有明病院乳腺センター乳腺外科 医長  
トータルケアセンターサバイバーシップ 支援室長・地域連携室長

**片岡 明美** (かたおか あけみ)

### 【学歴】

1994年 佐賀医科大学卒業  
2001年 九州大学 医学博士乙第2279号

### 【職歴】

1994年 九州大学医学部第二外科入局 関連病院にて研修  
2001年 国立病院機構九州がんセンター乳腺科  
2008年 ブレストサージャリークリニック、ウイミンズウエルネス銀座クリニック、  
田園調布ファミリークリニック  
2010年 東邦大学医療センター大森病院乳腺内分泌外科  
2015年 がん研究会有明病院乳腺センター乳腺外科

### 【所属学会】

日本乳癌学会  
日本外科学会  
日本がんサポーターティブケア学会  
日本がん治療学会  
日本オンコプラスチックサージャリー学会  
日本がん生殖医療学会

### 【専門資格等】

日本乳癌学会乳癌専門医・指導医  
日本外科学会外科専門医・指導医  
日本がん治療認定機構がん治療認定医  
日本オンコプラスチックサージャリー学会乳房再建実施医師  
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会読影認定医

## 【スポンサードシンポジウム 共催：GEヘルスケア・ジャパン株式会社】

### 乳がん検診のモダリティの今とこれから—乳房超音波のよもやま話—

三河乳がんクリニック

水谷 三浩

水谷 三浩、内海 俊明

三河乳がんクリニック

乳がん検診の目的は早期乳がんを発見し、個々の良好な予後を確保することによって乳がんの死亡率を低下させることである。またそのうえで検診精度を担保し、過剰な偽陽性・偽陰性例や過剰診療を抑制することも重要な命題である。マンモグラフィ（以下MG）と乳房超音波（以下US）が相補的に機能し、両検査を併用で偽陽性・偽陰性例を適確に制御する効果もある。したがって私ども三河乳がんクリニックでは、乳がん検診においても両検査の実施は必須と考えており、診療・検診ともにMGとUSによる総合判定を礎に診断システムを構築している。

実際に当院の知立市と安城市住民の乳がん検診のデータを鑑み、MGおよびUSの併用検診の有効性について検証し、日本産婦人科乳腺医学会誌に報告した。2018.4～2021.3の3年間に乳がん検診を受けた両市の女性7883例から発見された乳がん40例を対象に、診断精度、MGとUSの診断成績および病理などを後方視的に解析した報告である。同40例を発見動機別に3群（MO群7例：MGのみで発見、MU群17例：MGとUSで発見、UO群16例：USのみで発見）に分け、各群の画像所見と病理を解析すると、それぞれのモダリティで発見される乳がんの特性が見えてくる。MO群は全例微細石灰化の集簇のみを呈し、6例はcomedoタイプ3例を含むDCISであった。一方MU群、UO群の多くはUSで小腫瘍像を呈し、圧倒的に多くの浸潤がんを含んでいた。このようにMGとUSで発見される乳がんは異なる性状を持つために、両検査には補完性があり、どちらかが欠ければ見落としに陥る乳がんの存在することが判る。我々の検証においてもJ-STARTの第一報・中間報告のごとく、US併用検診によって多くの早期浸潤がんの発見が期待されること、USの有効性が高濃度乳房例に偏るものでないことなど、USの検診への導入の重要性が確認された。一日も早いUS併用検診の普及が切望するところだ。

さて私は日頃USの習熟法について助言を求められることが多い。そのうえで私は体表用の高周波探触子の導入を必須条件とし、まず適切なポジショニングと全乳房スキャンのトレーニングの徹底を勧める。そしてさらにUS所見の読影上で“層状構造、内部エコー、後方エコー”の観察・評価の重要性を強調している。今回の講演では乳房超音波の習熟を志す方々に伝えたい内容を詳述する。



## 略歴

---



三河乳がんクリニック 院長

水谷 三浩 (みずたに みつひろ)

### 【学歴】

平成元年 国立三重大学医学部卒

### 【職歴】

平成元年：三重大学医学部附属病院救急部・集中治療部・麻酔科入局

同 3 年：三重大学医学部附属病院第二外科入局

同 6 年：ブレストピアなんば病院着任

同 10 年：愛知県がんセンター中央病院乳腺科着任

同 17 年：愛知県がんセンター愛知病院乳腺科着任（初代部長）

同 21 年：三河乳がんクリニック開設 ～現在に至る

### 【所属学会】

日本外科学会 日本乳癌学会 日本乳癌検診学会 日本産婦人科乳腺医学会

超音波医学会 乳房甲状腺超音波医学会 乳癌画像研究会 良性乳腺疾患研究会

### 【専門資格等】

外科学会専門医 乳癌学会指導医・専門医 超音波医学会指導医・専門医

## マンモグラフィ検診における読影の基本

がん・感染症センター都立駒込病院外科（乳腺）

岩本 奈織子

マンモグラフィ（MG）は、検診で乳癌死を減少させることが示されている唯一のモダリティである。検診だけでなく、乳癌診療さらには乳癌術後においても不可欠な検査である。一方で、MGには様々な課題も指摘されている。最大の問題点は、日本人を含めアジア人に多い高濃度乳房症例において、検出感度が低下することである。対策型検診の対象となる40代女性では、高濃度乳房は6割弱を占めるとされる<sup>1)</sup>。

上記のような課題に対処する新しい技術として、3Dのデジタルトモシンセシス（DBT）が注目されている。DBTを用いた検診によって、2DのMGのみの場合と比較して、高濃度乳房の女性では進行乳癌と診断される症例が減少することが示されている<sup>2)</sup>。DBTは、構築の乱れや腫瘍がより描出されやすく、さらに擬陽性を減少させることもわかっており<sup>2)</sup>、今後検診での普及が期待される。

また、乳房の構成の判定についても課題が指摘されている。乳房の構成は、従来は目視で行われることが多いが、読影医間でばらつきがあることが知られている。最近では、乳腺密度測定ソフトウェアを用いて定量的に乳房の構成を判定することもあるが、目視より高濃度と判定される傾向も高いため留意する必要がある。

本会では、乳癌症例の2D、3DのMG画像を提示する予定である。特に2DのMGでカテゴリ1、2であったが、DBTでカテゴリ3以上の所見を認めた症例に着目して画像を供覧する。実際の症例を通して、乳腺外科医の立場から、読影の基本について解説を行う。さらに、演者全員で討議を行い、正確な読影について会場の先生方と考える機会としたい。

### 参考文献

- 1) 鈴木昭彦、石田孝宣、原田成美、他：高濃度乳房と J-START。日乳癌検診学会誌。2019;28:5-8。
- 2) Kerlikowske K, Su YR, Sprague BL, et al: Association of screening with digital breast tomosynthesis vs digital mammography with risk of interval invasive and advanced breast cancer. JAMA. 2022;327:2220-2230.

## 略歴

---



がん・感染症センター都立駒込病院外科（乳腺） 医員

**岩本 奈織子**（いわもと なおこ）

### 【学歴】

平成 19 年 信州大学医学部卒業

### 【職歴】

平成 19 年 長野市民病院 初期研修  
平成 21 年 順天堂大学 乳腺科  
平成 22 年 東京臨海病院 外科  
平成 23 年 済生会川口総合病院 外科  
平成 24 年 順天堂大学 乳腺科  
平成 25 年 東京臨海病院 外科  
平成 27 年 都立駒込病院 外科（乳腺）

### 【所属学会】

日本乳癌学会  
日本外科学会  
日本乳癌検診学会  
日本臨床腫瘍学会  
日本癌治療学会

### 【専門資格等】

日本乳癌学会乳腺専門医・指導医  
日本外科学会外科専門医  
日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医  
日本乳がん検診精度管理中央機構乳がん検診超音波検査実施判定医【学歴】

## 乳房 MRI と最新技術

獨協医科大学埼玉医療センター放射線科

久保田 一徳

造影乳房 MRI は乳房の画像診断において最も診断能が高いと考えられている。日本では乳癌術前の広がり診断や副病変検出の目的で用いられることが多いが、欧米では高濃度乳房に対してのスクリーニング検査にも広く用いられ、日本においても HBOC（遺伝性乳癌卵巣がん症候群）に対してのサーベイランス検査として行われ始めている。また石灰化症例や乳頭異常分泌症例における方針決定のための検査としても行われることがある。ここでは、現状の乳房 MRI 画像診断について、撮像方法や読影方法、MRI 検出病変についてのマネージメントについて紹介したい。

乳房 MRI では T1 強調像、T2 強調像、拡散強調像といった非造影の撮像に加えて、ガドリニウム造影剤を用いて、造影 dynamic study の撮像が行われる。乳癌が多血性であり強い増強効果を呈することや、乳腺実質も緩徐に増強効果を呈することから、造影後 2 分以内の早期相を中心に読影を行う。欧米では非造影と造影早期相のみを撮像する abbreviated MRI（省略型 MRI）が提唱され、MIP（maximum intensity projection）像によって多くの症例では数秒で病変の有無を判別することができるとされている。日本では精密検査やハイリスク症例の検査が主体なので省略した撮像を行うことは少ないが、造影早期 MIP 像を中心に読影していくことはとても重要である。

乳房 MRI では正常乳腺も増強効果を呈し、これを BPE（background parenchymal enhancement）とよぶ。つまり、BPE 以外を病変と考えて読影するわけである。BPE には個人差もあるがホルモン状態によって変動し、とくに月経直前に強く、BPE が弱いことが多い月経開始 7-14 日目での撮像が推奨される。BPE が強いと病変が埋もれることや、左右差のある BPE なのか病変なのかがわかりにくくなる。術前の MRI では手術日を優先すべきだが、スクリーニングや精密検査で行う際には日程を合わせるべきである。

近年、造影早期相をさらに高速に撮像する ultrafast dynamic MRI が行われるようになってきた。機器の進歩によって 5 秒前後での高分解能撮像を繰り返し行うことができ、造影剤投与後に連続した撮像を行うことで、病変の増強効果の立ち上がりのタイミングを観察することができる。BPE の影響も少なく、さらに良悪性の判別にも有用であるとされている。また、拡散強調画像を中心とした造影剤を用いない撮像にも期待されており、今後の標準化が必要と考えられている。これらの新規技術も含めて解説を行いたい。

## 略歴

---



獨協医科大学埼玉医療センター放射線科 主任教授

久保田 一徳 (くぼた かずのり)

### 【学歴】

1998年3月 東京医科歯科大学医学部医学科卒業  
2002年4月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科（社会人大学院）入学  
2006年3月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 学位取得卒業

### 【職歴】

1998年7月 東京医科歯科大学医学部附属病院放射線科医員採用  
1999年10月 中野総合病院放射線科採用  
2002年10月 東京医科歯科大学医学部附属病院医員採用  
2004年4月 東京医科歯科大学医学部附属病院助手（現助教）採用  
2011年2月 同、講師  
2017年7月 同、准教授  
2019年4月 獨協医科大学病院放射線部 教授  
2021年4月 獨協医科大学埼玉医療センター放射線科 主任教授

### 【所属学会】

日本医学放射線学会、日本乳癌学会、日本核医学会、日本磁気共鳴医学会、日本乳腺甲状腺超音波医学会、日本超音波医学会、日本癌治療学会、日本 IVR 学会、日本医療情報学会、北米放射線学会

### 【専門資格等】

日本医学放射線学会放射線科専門医・放射線診断専門医、日本乳癌学会乳腺専門医・乳腺指導医、日本核医学会核医学専門医・PET 核医学認定医、日本超音波医学会認定超音波専門医、指導医、日本 IVR 学会 IVR 専門医、検診マンモグラフィ読影認定 (AS)、乳房超音波試験認定 (A)、第一種放射線取扱主任者、がん治療認定医、医療情報技師

---

## 関連学会・研究会予定

---

### 第20回日本乳癌学会中部地方会

会期：2023年9月2日(土)・3日(日)

会場：山梨県立大学池田キャンパス

当番世話人：井上 正行（山梨県立中央病院外科系第一診療統括副部長（乳腺外科））

### 第21回日本乳癌学会北海道地方会

会期：2023年9月16日（土）

会場：ACU 札幌

当番世話人：玉川 光春（医療法人禎心会セントラルCIクリニック院長）

### 第20回日本乳癌学会中国四国地方会

会期：2023年9月22日（金）・23日（土）

会場：広島県医師会館

当番世話人：重松 英朗（広島大学原爆放射線医科学研究所腫瘍外科講師）

### 第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会

会期：2023年10月14日（土）、15日（日）

会場：一橋大学一橋講堂

会長：田畑 務（東京女子医科大学産婦人科学講座主任教授）

### 第12回北海道産婦人科乳腺医学会学術集会

会期：2023年10月15日（日）

会場：オンライン開催

会長：加藤 育民（旭川医科大学産婦人科教室教授）

### 第33回日本乳癌検診学会学術総会

会期：2023年11月24日(金)・25日(土)

会場：福岡国際会議場

会長：渡邊 良二（糸島医師会病院副院長・乳腺センター長）

### 第21回日本乳癌学会近畿地方会

会期：2023年11月25日（土）

会場：京都産業会館ホール・京都経済センター

当番世話人：杉江 知治（関西医科大学附属病院乳腺外科教授）

**第 51 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会**

会期：2023 年 12 月 16 日（土）・17 日（日）

会場：秋葉原 UDX

会長：福島 光浩（昭和大学横浜市北部病院甲状腺センター准教授）

**第 30 回日本乳腺疾患研究会**

会期：2024 年 2 月 16 日（金）・17 日（土）

会場：龍宮城スパホテル三日月

会長：福間 英祐（亀田総合病院乳腺科部長）

**第 30 回日本産婦人科乳腺医学会**

会期：2024 年 2 月 25 日（日）

会場：京王プラザホテル

会長：関根 憲（関根ウィメンズクリニック理事長）

**第 33 回日本乳癌画像研究会**

会期：2024 年 3 月 16 日（土）・17（日）

会場：秋田市アトリオンまたは WEB 開催

当番世話人：石山 公一（秋田大学医学部附属病院放射線診断科）

---

## 協賛企業・団体一覧

---

あすか製薬株式会社  
アストラゼネカ株式会社  
エーザイ株式会社  
MSD株式会社  
大塚製薬株式会社  
慶應義塾大学医学部産婦人科学教室同窓会  
GEヘルスケア・ジャパン株式会社  
千葉県産科婦人科医学会  
中外製薬株式会社  
株式会社ツムラ  
日本イーライリリー株式会社  
日本新薬株式会社  
一般財団法人日本予防医学協会  
株式会社ネクサスエージェント  
富士製薬工業株式会社  
持田製薬株式会社

五十音順 2023年7月10日現在

---

### 謝 辞

第14回 関東産婦人科乳腺医学会の開催に際しまして、上記の企業・団体から多大なるご助成、ご協賛をいただきました。ここに感謝の意を表します。

第14回 関東産婦人科乳腺医学会  
会長 高松 潔